

1 経営的特徴と導入方法

ワレモコウは、バラ科ワレモコウ属の宿根草で、日本各地の山野の草原に自生する。草丈50cm～150cm、茎は分枝して8～10月に1～2cmの暗紅色の花を多数つける。古くから秋草として鑑賞されてきた山野草のひとつで、他の山野草、枝物や洋花ともよく調和するため広く用いられている。

栽培は比較的容易で、補完品目として取り入れることができる。

表1 10a当たり旬別所要労働時間(単位:時間)

月	1月			2月			3月			4月			5月			6月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
時間												8.0				4.0		8.0

7月			8月			9月			10月			11月			12月			合計
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
20.0		4.0	8.0	4.0	16.0	20.0	32.0	64.0	64.0	64.0	64.0	32.0						412.0

(注) 1. 山梨県農業経営指標 I (果樹・花き) (1999.3)

2. 出荷本数 24,000本/10a 露地栽培

2 生理生態的特性と適応性

耐寒性は極めて強く、夏季冷涼な地域のほうが生育が旺盛である。土質はほとんど選ばないが、やや湿り気がある肥沃な土壌が適する。乾燥する場所では生育が悪くなるが、滞水するような場所も好ましくない。

3 作型と品種

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地栽培	○ — △ — ◎ —											
	— — — — ▽ — — — — □											

凡例; ○: 播種、△: 仮植、◎: 定植、▽: 株分、□: 収穫

(1) 作型

露地の季咲き栽培では春播きして、その年は株養成をし、次年度から切り花する。商品性の高い切り花は3年目からとなり、その後3～4年は据置栽培することができる。

(2) 品種

ワレモコウには園芸品種はなく、ワレモコウの変種としてオオワレモコウとカルネアがある。また、テヌイフォーリア種の変種に白花のコバナワレモコウ、ナガボノシロワレモコウがある。

4 栽培

(1) 育苗

種子は降霜前に採種し精選する。播種は4月頃に床播きする。播種後2～3週間で発芽する。播種後本葉2～3枚になったら仮植する。

株分けする場合は春又は秋に行う。このときあまり小さく分けると花付きが悪くなり貧弱となる。

(2) 定植

定植を前に堆肥をa当たり200kg、基肥として窒素、加里を1kg、りん酸を1.5kg程度施用する。定植は床幅60～70cm、株間30cm、条間30cm、通路60cmの2条植えか、畝幅120cm、株間30cmの1条植えとする。

(3) 定植後の管理

定植後は高温と乾燥防止のため敷わらををする。日射の強い場所では、夏期は寒冷しゃを被覆して葉焼けを防止する。収穫する年には、収量の増加と均一生産を目的に摘心する。摘心は5月下旬～6月上旬に本葉5～6枚を残して行う。花茎が伸長してきたら倒伏を防止するためフラワーネットを張る。

5 主要病害虫とその防除対策

(1) 病 害

県内でさび病及びべと病の発生が確認されている。べと病は葉に葉脈で区切られた褐色の斑点を生ずる。

(2) 虫 害

アブラムシ類等が加害するが、他の害虫も含めて県内では不明な点が多い。

6 収穫・調製・出荷

収穫の目安は開花して、とがくが暗紅色になった時期である。

早切りをさげ、とがくが完全に着色したら収穫する。

参考・引用文献

- 1) 長野県、長野県農業協同組合中央会、長野県経済事業農業協同組合連合会、「花き栽培指標」
(平成10年)

ワレモコウ栽培ごよみ

月	旬	生育 状況	作 業	栽 培 の 要 点	摘 要										
3	上	播種準備		1 作型と品種 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>作 型</th> <th>播種期</th> <th>仮植期</th> <th>定植期</th> <th>収 穫 期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>露地栽培</td> <td>4月上旬</td> <td>5月上旬</td> <td>6月上旬</td> <td>2年目以降8月上旬~9月下旬</td> </tr> </tbody> </table>	作 型	播種期	仮植期	定植期	収 穫 期	露地栽培	4月上旬	5月上旬	6月上旬	2年目以降8月上旬~9月下旬	
	作 型				播種期	仮植期	定植期	収 穫 期							
	露地栽培				4月上旬	5月上旬	6月上旬	2年目以降8月上旬~9月下旬							
中															
下															
4	上	播種 中期	播種 仮植	2 栽培 (1) 育苗 種子は降霜前採種し、精選する。4月頃床播きする。 本葉2~3枚になったら仮植する。											
	中														
	下														
5	上	育苗 中期	育苗管理	(2) 定植準備 堆肥を a 当たり300kg、基肥として窒素、加里を1kg、りん酸1.5kg 施用する。											
	中														
	下														
6	上	定植 中期	定植 株分け (2年目以降)	(3) 管理 高温・乾燥防止のため敷わらをする。 日射の強い場所では、夏期は寒冷紗を被覆して葉焼けを防止する。											
	中														
	下														
7	上	生育 中期	栽培管理	収穫する年には5月下旬~6月上旬摘心を行い、花茎が伸長してきたら倒伏を防止するためフラワーネットを張る。											
	中														
	下														
8	上	2年 目以降	(2年目以降 収穫)	3 収穫・調製・出荷 開花するとがくが暗紅色になるので、早切りをさけ、がくが完全に着色したら収穫する。											
	中														
	下														
9	上	収穫期													
	中														
	下														
10	上	生育 中期													
	中														
	下														
11	上														
	中														
	下														
12	上														
	中														
	下														
1	上														
	中														
	下														
2	上														
	中														
	下														